

わんぱく学園ニュース

平成21年 1～2月号 No140

心もあったかいクリスマス会

12月14日(日)に行われたクリスマス会に初めて参加させていただきました。

わんぱくでの本の読み聞かせの経験は初めてなので、参加する人たちの顔を想像しながらあれこれ思案し、紙芝居や本の中からいくつかを選びました。さて当日、会場の7Fは「おちらと」へ。何だか落ち着かない私、「おはようございま〜す」と参加者の元気な声と出会いました。いよいよクリスマス会が始まりました。参加者は13名。誠さん、亮さん、和則さん、広さん、良恵さん真弓さん姉妹、直美さん、満里奈さんとお父さん、福田稔先生、山口恵子先生、土江和世先生と私。とても楽しい皆さんがいっぱい！。思い思いの紹介をしあい、良恵さん持参のクリスマスソングのカセットをかけたり、和世先生の伴奏で「ジングルベル」「四季の歌」等を歌ったりし雰囲気は急上昇。そのうち誠さんのおはこ「がけの上のポニョ」や亮さんの即興、四季の歌替え歌「一週間僕の仕事や家族紹介バージョン」も飛び出し、みんなで手拍子や一緒に口ずさんだり、「すごーい」「じょうずー」と感心し雰囲気は最高潮に。私の緊張もすっかりとけ、以前からの顔見知りかのような気分になりました。その後私がクリスマスにちなんだ紙芝居と本を紹介してプレゼント交換へのつなぎをしました。各自が100円で用意した物を音楽に合わせて回し、お互いに披露しあい100円とは思えない程様々な物や考えた物があり楽しいプレゼント交換となりました。又、山口さん発案のビンゴゲームでは、うきうきドキドキしながら「ビンゴ」と威勢のよい声が飛び出しました。上位3人には会場にある手作り陶芸作品賞品に、また盛り上がりました。ケーキや飲み物でしばし歓談し無事終わりました。外は冷たい雨が降り続いていましたが、身も心も皆さんからいただいた明るさ、優しさ、温かさでいっぱいになりました。ありがとう皆さん！。 記 山本絹子(小学校教諭)

1月と2月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

1月18日	初湯ゆり(担当 福田稔・土江和 場所ゆりり入口)入場料200円学園補助※準備タオル
25日	陶芸コネコと初ガマ(お抹茶)(担当 安食ひろ・尾原志子)《場所 おちらと》
2月 1日	餅つき&黄な粉もち(担当 山口恵・土江和)《場所おちらと》※準備エプロン
8日	コンニャク屋さんになろう(担当福田稔・土江和)《場所おちらと》※材料費200円
15日	ビーズ遊びしよう？(担当 平井敦子 場所 おちらと)※材料費200円
22日	粘土遊&タコ焼き作り(担当安食ひろ・田中修)《場所おちらと》※材料費200円

発給時間 9時半 b 発給場所 現地《学園の隣 合わせ 土江09077745913》[文責土江和世]

あけまして おめでとうございます

初春月……今年で、もう22年目を迎える『わんぱく学園』。未曾有の不況に雇用不安が大きな社会問題となった昨年、今年は更にその環境がきびしくなるとか言われています。でも逆境こそ、人生を人間を強くする大きなチャンスではないでしょうか。

まわりの過度の情報にあわてることなく、「牛」にちなんで足元を固めることが、今一番大切ではないでしょうか？。

「牛に乗って牛を尋ねる」ということわざがありますね。求める牛が身近にあるのに気づかず、遠くを探しに行くという無駄な努力をすることの意味だそうです。いわゆる『まずは身近なところから』ということなのでしょう。ですから今一度、私たちが住んでいるこの出雲、いや島根の身近な魅力を見直そうではありませんか。力を合わせ、より力強い市・県にしたいものです。それには、社会を構成する老若男女が共生し、助け合うことが大切かと思えます。

だからこそ当学園のような、“障がい者・健常者の交わりを通して、明るい社会を作ろう”という活動も必要ではないでしょうか。皆様方の温かな励ましに支えられボチボチと歩み続けてきたこの学園、足元をしっかり見つめ、おちらと(ゆくりと)歩いていきたいと思っています。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

◆ レポート ; 長岡真弓 (三葉園)

◆ 12月21日(日) インドカレーおいしかったね！ まさに

〈カレー作りのひとこま〉 **これが不思議人!!**

玉ねぎの切り方だけでも色々あるな〜と思った。安食ひろ先生は、みじん切りしておられたので、私が「カレーはわん切りするよ」と言ったら、「インドカレーは男の料理！僕は家でこうやって作っているんだよ。インドの人は、普段は手で食べてるよ」とも話してくれた。皆で和気あいあいと食べ美味しかった。それにしても安食先生は陶芸家であるのに、何でも出来る面白く不思議な人である。

